

はじめに

- 令和元年6月に政府の「認知症施策推進関係閣僚会議」で「認知症施策推進大綱（以下、「大綱）」という。」がとりまとめられました。この大綱では、基本的な考え方として、「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していく」と示されました。

大綱では、この「共生」について、「認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる」と定義がされています。これは、「認知症の人が、できないことを様々な工夫で補いながら、できることを活かして希望や生きがいを持って暮らしていく」「認知症があってもなくても、同じ社会の一員として地域をとともに創っていく」ことであり、特に、「希望」という言葉が盛り込まれているように「認知症になっても希望を持って前を向いて暮らしていく」というメッセージが強く込められています。この考え方は、チームオレンジの取り組みを進める中でもとても大切ではないでしょうか。

- 国は、「地域において認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズと認知症サポーターをつなげる仕組み」となるチームオレンジについて、「認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を図るとともに、認知症サポーターのさらなる活躍の場を整備する」としております。

大綱では、2025年までに全市町村でチームオレンジを整備すると掲げられています。この目標を達成するために、令和2年度から、地域支援事業実施要綱において「認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業」が位置付けられる等、計画的に整備していくこととしております。

- このような状況のなか、どのようにチームオレンジを作り、どう運営を進めていったらいいのか、悩んでいる市町村の方も多いのではないのでしょうか。

- この冊子は、(1)市町村の行政担当者、(2)認知症地域支援推進員、(3)コーディネーター（候補者）、(4)チームリーダー（候補者）を対象者に想定し、各市町村でのチームオレンジの整備や活動の参考となるよう、モデル市町の方々のご協力をいただき作成しました。

ここでは、まず、チームオレンジの中核を担うことが期待されていますコーディネーターの活動において心がけていただきたいことをまとめました。また、チームオレンジにつながるとされるモデル市町における活動事例について紹介しています。これらの活動事例を参考にいただき、チームオレンジの整備や活動にお役立てください。